

GAKUGAKU活用ガイド

全国学力・学習状況調査を活用した
授業改善・校内研修のための実践マニュアル

こちらから
スタート！



本資料は、デジタル版になっています。
該当箇所をクリックして参照してください。



滋賀県教育委員会事務局
幼小中教育課

本資料に関する
活用アンケート

目次 ガイドの構成と各章の内容

本ガイドは、時期に応じて内容をアップデートします。まずは、こちらをクリック！



スケジュールを確認

 各学校の実態や目的に応じて活用してください。

調査問題を分析している時間がない。ポイントを教えてほしい。



質問調査を活用して、学校全体の取組について考えたい。



結果をどのように分析し、活用すればよいの？



該当の学年・教科の担当だけではなく、全体で研修を進めるには？



昨年度の各教科の課題は、今年度のどの問題に該当するの？



調査を活用した授業改善に興味がある教員に資料を紹介したい。



本資料に関する活用アンケート

本ガイドのアップデートに向けて、活用した感想や意見をお寄せください。



全教員で御確認いただきたい内容

主に管理職・教務主任・研究主任の方向けの内容

0 昨年度調査の課題と「取組の重点」

- ・昨年度調査において全ての教科でみられた主な課題を掲載
⇒「取組の重点」に基づいた授業の「今」を確認！

1 調査問題の分析 ～問題を踏まえた授業改善～

- ・調査問題を、滋賀県の課題を踏まえて分析
⇒Pickup問題に込められた授業改善のメッセージを把握！

2 質問調査の分析 ～今求められる取組とは～

- ・児童生徒質問調査の内容から、特に確認したい質問を厳選
⇒今求められる取組について確認し、具体的な実践につなげる！

3 調査結果の分析方法と活用事例

- ・結果の分析方法や、調査の目的を踏まえた活用事例を紹介
⇒調査結果のデータを利活用して、授業改善・学校経営につなげる！

4 校内研修会の進め方

- ・調査を活用した校内研修会の進め方を、目的や実施時間別に掲載
⇒学校の実態に応じた研修を、簡単な準備で効果的に実施！

5 各教科の主な課題と今年度の該当問題

- ・昨年度調査に見られた各教科の課題と今年度の問題の関連を掲載
⇒今年度の着目すべき問題が分かる！

6 調査に関わるその他の参考資料

- ・調査問題の解説資料や、過去の調査問題・結果等を掲載
⇒調査問題を活用して授業改善につなげるヒントあり！



各学校において、調査結果の返却までにしておくことを確認します。

4～5月

6月

7月

8月

9月～

調査実施後

結果の返却後



結果返却までのチェックシート

	全員が	一部の教員は	していない
① 昨年度の自校の課題を確認している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 昨年度の課題を踏まえた取組を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 今年度の調査問題を教員が解いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 今年度の質問調査の内容を確認している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 調査問題等を参考にした取組を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 調査結果の返却後の取組について計画している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

各学校の状況に応じて
こちらをクリック!

- 0 昨年度調査の課題
- 1 調査問題の分析
- 2 質問調査の分析
- 3 調査結果の分析
- 4 校内研修会の進め方

もっと思える!



昨年度調査の課題と「取組の重点」

昨年度の教科の調査で見られた課題等を踏まえた取組をまとめたのが「取組の重点」です。詳細は、コチラから



令和8年度
「取組の重点」



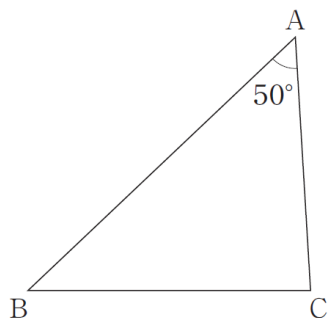
すべての教科に共通して見られた課題です。改善に向けた取組が日々の授業で実践できているかを確認します。

共通の課題①

各教科等における用語の意味を正しく理解し活用すること

令和7年度 中学校数学 ③

③ 下の図の△ABCで、頂点Aにおける外角の大きさを求めなさい。



正答率（本県）**57.3%**
（全国）58.1%

共通の課題②

学んだことをもとに、自分の考えをまとめ、表現・記述すること

令和7年度 小学校理科 ③（4）

(4) たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

正答率（本県）**26.0%**
（全国）29.9%

たかひろさんが行った実験

しめらせた
だっし緒

(条件)
・水あり
・空気あり（種子が空気にふれている）
・温度（室温）
・日光なし（箱をかぶせている）
・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、左の(条件)の中から1つ選んで調べてみたい。




(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

「取組の重点」に基づいた授業実践チェックシート

子どもが、各教科等における用語の意味を正しく理解できているか確かめる場面を設けていますか？	<input type="checkbox"/>
子どもが、各教科等における用語を使って説明したり、話し合ったりする場面を設けていますか？	<input type="checkbox"/>
教員も、各教科等における用語を意識して使っていますか？	<input type="checkbox"/>
子ども一人ひとりが、自分の考えをまとめ、表現・記述する時間を確保していますか？	<input type="checkbox"/>
子どもが、互いの考えを共有したり、まとめたり、表現したりする場面において、ICTを効果的に活用していますか？	<input type="checkbox"/>

1 調査問題の分析 ～問題を踏まえた授業改善～

 各教科の調査問題を参考にして、授業改善へつなげます。Pickup問題を解き、着目ポイントから授業改善について考えます。

まずはみんなで、
問題にチャレンジ！

	小学校 国語	小学校 算数	中学校 国語	中学校 数学	中学校 英語
Pickup 問題	大問 三 文章を読み、考えたことをまとめる 詳しくは こちらから	大問 4 日常生活の問題を解決するために、表やグラフを読み取る 詳しくは こちらから	大問 四 説明的な文章を読んで理解したことをノートにまとめる 詳しくは こちらから	大問 7 データの傾向を読み取り、批判的に考察・判断する 詳しくは こちらから	大問 10 短い文章を読んで要点を捉え、自分の考えと理由を書く 詳しくは こちらから
授業改善 ポイント	「読む目的」を明確にした上で、児童が情報を整理し、考えをまとめる工夫 詳しくは こちらから	見通しをもち、児童が主体となって問題を解決するための工夫 詳しくは こちらから	文章の構造を捉えたり、条件を満たして記述するための活動の工夫 詳しくは こちらから	数学の問題として捉え、問題解決の方法を数学的に説明するための工夫 詳しくは こちらから	目的や場面、状況等を設定し、考えや気持ちを表現する言語活動の充実 詳しくは こちらから
令和8年度 調査問題	 令和8年度「小学校国語」	 令和8年度「小学校算数」	 令和8年度「中学校国語」	 令和8年度「中学校数学」	 R8中英「聞く」  R8中英「読む・書く」  R8中英「話す」
令和8年度 指導の力点	 学年に応じた精査・解釈	 見方・考え方の見通しをもった学び	 内容と構造の両面から読む	 問題解決の見通しと、過程の振り返り	 聞く・話す・読む・書く時間の確保

小学校 国語

(2) 林さんは、小川さんと話し合ったことをもとに、改めて「文章」を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめることにしました。あなたなら、「文章」を読んで考えたことをどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 「文章」を読んで、考えたことを書くこと。
- 「文章」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- あなたの経験を書くこと。

※左の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。



ここに着目！②



- 「自分の考えを述べるためには、まず筆者の考えを理解する必要がある」と主体的に文章に向かう児童の姿や、図で示したり線でつないだりすることで情報を整理する具体的な方法が示されています。



【林さんのメモ】

二 林さんは、「文章」を読んで、筆者の考えを理解するために、部①、②、③について「林さんのメモ」のように整理しました。林さんはどのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

運動が好き

- ジョギング
- 水泳
- できるよくなる楽しさ
- うれしさ
- 達成感

運動が苦手

- バレエ
- バスケット
- めいわくをかけるつらさ

- 1 「苦手」を「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、筆者の経験したことを結び付けて整理している。
- 2 「苦手」を「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、自分の経験したことを結び付けて整理している。
- 3 「苦手」、「好き」、「きらい」の順に矢印でつなげて、筆者の経験したことを結び付けて整理している。
- 4 「苦手」、「好き」、「きらい」の順に矢印でつなげて、自分の経験したことを結び付けて整理している。

ここに着目！③



- 読んで考えたことを自分の経験や既有的知識とを結び付けてまとめ、記述する力が問われています。

3



「読んで内容を理解する」ことから一歩踏み込んで、「自分がどう考えたか」について記述する設問が設定されています。

「読む目的」を明確にした言語活動や文章の内容を理解する上での情報の整理の仕方が授業づくりの参考になります。



ここに着目！①



- 「心に残った文章について考えたことをまとめる」という言語活動が設定されています。「自分の考えを述べるために必要な情報を得る」という「読む目的」が明確になります。

林さんの学級では、自分の心に残った文章について考えたことをまとめることにしました。林さんは、「苦手」と「嫌い」という題名の文章を選んで読んでいます。次は、林さんが読んだ「文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



目的を明確にして読み進め、必要な情報を見つけて整理した上で、自分の考えをまとめる言語活動を設定することが大切です。

小学校 国語

実践ポイント① 「読む目的」を明確にした言語活動



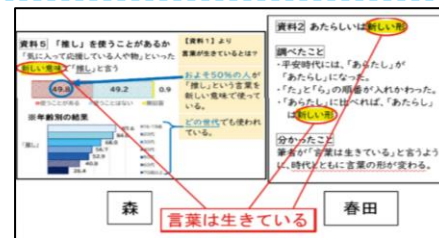
- 読むことの学習が「書き手の述べたいことを知る」という目的のみに偏らないようにし、児童が「読む目的」が何なのかを明確にできるような言語活動を取り入れることが大切です。

【言語活動の例】・〇〇について学ぶために文章を読み、興味をもったことや分かったことをまとめ、伝え合う活動
・意見の述べ方や、表やグラフなどの資料の効果的な示し方を見付け、自分の表現に生かし文章を書く活動

実践ポイント② 視覚化して情報を整理する手立て



- 情報を丸や四角で囲んだり、情報同士を線でつないで、どの部分とどの部分が結び付くかを明らかにしたりすることで、視覚化され、内容や構造が捉えやすくなります。文章を読んで理解するための手立てとして、計画的に指導しましょう。



令和7年度 全国学力・学習状況調査 授業アイデア例 より

実践ポイント③ 自分の考えと経験や知識を結び付けて表現する指導の工夫



- 「～と書いていました。それを読んでわたしは～」といった型を用いるなど、読んで理解したことや自分の考えと経験や既存の知識とを結び付けながら表現する学習を繰り返す、身に付けることができるよう指導しましょう。

【経験や既存の知識と結び付けて考えを表現(話したり書いたり)する型(例)】

- ⇒「読む目的」を意識できる一文目 ————— 「わたしが紹介したい(伝えたい、心に残しておきたい など)のは、～です。」
- ⇒見付けた「必要な情報」を根拠とする二文目 — 「教科書(本)には、～と書いていました。」
- ⇒経験や既存の知識とつなげて考える三文目 — 「それを読んで(知って)わたしは、～と考えました。前に～した(読んだ)からです。」
- ⇒これからの自分とつなげて考える四文目 — 「だから、わたしができる(心がけたい、心に残しておきたい など)ことは、～です。」



日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフを読み取り、見いだしたことを表現する問題です。
 児童の疑問や気づきを基にした、児童が主体となって問題解決する授業づくりの参考になります。

小学校 算数

4

6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょに、ボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。

(1) 1年生の各学級の人数は、下の表1のとおりです。

表1 1年生の各学級の人数 (人)

学級	1組	2組	3組	合計
人数	29	30	28	87

さくらさんたちは、1年生にアンケートをとり、どの遊びに参加するかを1つ選んでもらいました。

② さくら アンケートは1年生全員から集め、無回答はありませんでした。

下の表2は、集めたアンケートを整理したものです。

表2 1年生が選んだ遊び (人)

遊び	学級	1組	2組	3組	合計
ボール遊び		9	14	8	31
おにごっこ		8	7	10	25
昔遊び		12	6	10	28
合計		29	27	28	84

ここに着目！②



- 示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を記述する問題です。
- 目的に応じて学年の合計人数や各組の合計人数について、必要な数値を正確に読み取り、順序立てて考える力が必要です。

ここに着目！①



- アンケートによって得られたデータを分類整理して表に表し、その表に誤りがないか確かめています。
- 一人の児童の「全員分のアンケートが整理されていないのではないか」という発言を基に、どこに着目して考えればよいのかを考え始めています。

① えいた 1年生全員からアンケートを集めたのに、表2には、全員分のアンケートが整理されていないのではないのでしょうか。

さくら 全員分のアンケートが整理されていない学級があります。

表1と表2を見ると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」が1つあることがわかります。

「全員分のアンケートが整理されていない学級」は何組ですか。その学級を書きましょう。

また、そのことは、表1のどの部分と表2のどの部分を比べるとわかりますか。言葉と表1と表2の□の中の数を使って書きましょう。

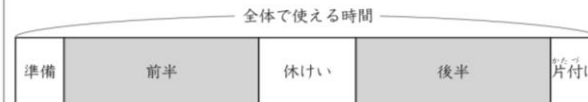
(2) さくらさんたちは、昔遊びを担当することになり、下のように【昔遊びの計画】を立てました。

【昔遊びの計画】

遊び方について

- ・ 前半と後半に、あやとり、または、かるたで遊ぶ。
- ・ 前半と後半が、同じ遊びでもちがう遊びでもよい。

時間の使い方について



- ・ 全体で使える時間は60分間。
- ・ 準備は最初の5分間。
- ・ 前半と後半の間の休けいは10分間。
- ・ 片付けは最後の5分間。
- ・ 前半と後半の時間は同じ。

【昔遊びの計画】を見ると、「前半」の時間は、何分間ですか。答えを書きましょう。

ここに着目！③



- 示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求める問題です。
- 示された情報が、帯グラフのどの部分に対応しているのかを考える力が必要です。



資料の「どこに着目するか」「どのように考えればよいか」を明確にし、児童が主体となって問題を解決できるようにしましょう。

小学校 算数

実践ポイント①  児童の疑問や気付きが生まれる学習課題の設定

- 授業の導入では、児童の疑問や気付きが生まれるよう、学習課題に示された情報と「前時までの学習」や「日常生活における体験」などとのズレに着目できるようにします。
- 児童の疑問や気付きに対して、教員が「なぜ疑問に思ったのか」「どのようにすると解決できそうか」等について問いかけるなどして、考えるポイントや課題意識を学級全体で共有します。



実践ポイント②  データを分類整理する数学的活動の充実

- 資料を分類整理する際には、落ちや重なりがないか調べたり、集計に当たって誤りがないか確かめたりする時間を設定します。
- 表を使って書き表す活動や、「表から読み取ったことは何か」を児童が説明する活動を継続して行うことで、児童が「どこに着目するか」「どのように考えればよいか」を明確にして考えられるように指導します。
- 数学的活動では、「どこを比べるとそれが分かるかな？」と具体的に問いかけたり、算数の用語を用いて説明するように促します。



実践ポイント③  条件に示された情報を表・グラフと結び付けて考える

- 表・グラフの該当部分に、示された情報から分かることを書き込んだり、どのように考えればよいかを児童同士で話し合ったりする活動を取り入れます。
- 「表・グラフから答えを見つけたけれど、式でも表せないだろうか」「いくつかの考え方ができたけれど、いつでも使える方法はどれだろうか」など、児童の考えを広げたり、深めたりする発問をします。
- 「どこに着目し」「どのように考え、問題を解決したか」について振り返る場面を設定しましょう。



中学校 国語



擬音語・擬態語について書かれた説明的な文章を読んで、自分の考えを述べる問題です。文章の構造を捉えたり、表現の効果について考えたりする力を育成する指導の参考になります。

4

一 林さんは、文章全体を三つに分けてノートに整理しています。整理したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

①

7	6	5	4	3	2	1
筆者の分析と考え			多様な例の紹介			話題の提示

段落

段落の役割

7	6	5	4	3	2	1
筆者の分析と考え			多様な例の紹介			話題の提示

段落

段落の役割

7	6	5	4	3	2	1
筆者の分析と考え			多様な例の紹介			話題の提示

段落

段落の役割

7	6	5	4	3	2	1
筆者の分析と考え			多様な例の紹介			話題の提示

段落

段落の役割

ここに着目！③

- 「具体的に書く」「本文中の言葉を使って書く」という条件を踏まえ、擬態語が表す様子や擬態語の効果について、考えたことを記述することができるかが問われています。

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈例文1〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきつぱりと言った。



②

③

条件1 〈例文2〉の擬態語「きつぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

ここに着目！①

- 説明的文章の構造について、叙述をもとに適切に捉えられるかが問われています。
- 段落相互の関係や役割を生徒自身が試行錯誤して捉える活動が必要です。

ここに着目！②

- 擬態語が含まれている例文と、含まれていない例文を比較することで、擬態語にどのような効果があるかについて考えることができます。



生徒が試行錯誤しながら文章の構造を捉えたり、条件に応じて記述できるようにしましょう。

中学校 国語

実践ポイント① 文章の構造を正しく捉えるための活動の工夫

- 「読むこと」の学習において、文章の内容を確認するだけでなく、文章の構造について生徒自身が試行錯誤して捉える学習場面を設定しましょう。
- 説明的な文章を取り上げる単元では、これまでに学習した文章と新しく学習する文章の構造を比較することで、「主張に説得力をもたせるために筆者がどのような工夫をしているか」考えたり、話し合ったりする活動を取り入れます。
- 前学年や小学校で学習した文章を取り上げることで、「何が書いてあるか」が理解しやすくなります。内容の把握が容易になると、「どのように書いているか」という構造に着目しやすくなります。



実践ポイント② 表現の工夫とその効果について考えることができる活動の工夫

- 注目する表現を含んだ場合と、含んでいない場合を比較し、伝わる内容や読み手が受ける印象にどのような違いがあるのかについて考えを交流します。
- 違いはなぜ生まれるのか、根拠を示しながら話し合う活動を取り入れます。
- 「どのような表現が使われているか」だけでなく、「どのような効果があるのか」に着目する経験を積み重ねることで、多様な表現の良さを味わったり、自分の表現に生かしたりすることにつながります。



実践ポイント③ 複数の条件を満たして記述するための活動の工夫

- 「何について」「どのように書く必要があるのか」という条件を確認します。
- 書いた互いの文章を1人1台端末を活用するなどして共有します。生徒が多くの文章を読んで比較することができるようにします。
- 条件を満たした書き方の文章を選び出し、どのように書けばよいかをグループで検討します。その後、改めて自分の文章を見直し、必要に応じて書き直す時間を設けます。
- 読み手の立場になって自分の書いたものを再考することが大切です。



ICTを活用した
試行錯誤の実践例



中学校 数学

7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MBまでにすることになっています。

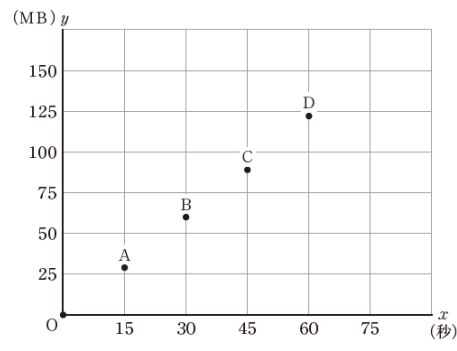
1

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



調べた結果

x (秒)	0	15	30	45	60
y (MB)	0	29	60	89	122



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 調べた結果の表をみて、グラフの点Cの座標を書きなさい。

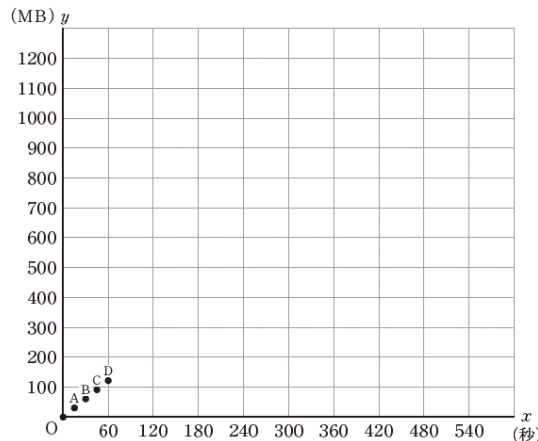
ここに着目！ ①



- データを収集し、収集したデータを表やグラフに整理しています。
- 表とグラフを相互に関連させて考える力が必要です。

(2) 光希さんは、1000 MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

2

3



日常生活の中にある関数関係に着目し、構想を立て、問題を解決する問題です。

問題解決の方法を数学的に説明できる力が問われています。

ここに着目！ ②



- 表やグラフから、二つの数量の関係について考え、既習の関数である比例とみなして、問題を解決することができるか判断する力が必要です。

ここに着目！ ③



- 「データ量が1000MBになるときの動画の時間が、おおよそ何秒になるか」求める方法を説明します。
- 「用いるもの(表、式、グラフ)」を明確にした上で、その「使い方」を数学的に説明する力が必要です。



中学校 数学

実践ポイント① 情報を適切に読み取る活動の工夫



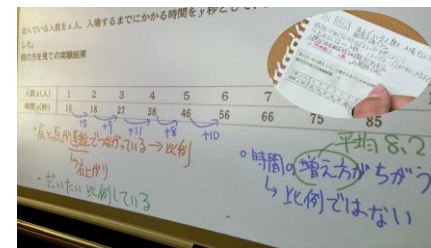
- 調べた表を基に点を取り、それぞれの点が具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動を取り入れます。
- ⇒ Pickup問題なら、「動画を45秒撮影したときのデータ量が89MBであった」ということをグラフのどこに表すのかや、点C(45,89)が日常的な事象では何を表しているのか、確認する場面を設けます。



実践ポイント② 既習の関数とみなしてよいと判断するための活動の工夫



- それぞれの点が一直線上にあると考えてグラフを直線で表すことが、どのような仮定に基づいているのかを捉える活動を取り入れます。
- ⇒ Pickup問題なら、「グラフが直線であるということは、表においても変化の割合が一定である」ということを確認する場面を設けます。具体的な値で考えることで、「1秒あたりのデータ量が一定である」という仮定に基づいていると、捉えやすくなります。



実践ポイント③ 数学的に説明する活動の工夫



- 「用いるもの(表、式、グラフ)」を明確にして、その「用い方」を説明するという条件を確認します。
- 端末を用いて、モデルとなる説明を共有したり、「グラフをかいて調べる」のような十分でない説明を取り上げて吟味したりする活動を取り入れます。
- ⇒ Pickup問題なら、グラフを用いる場合、「原点Oから点Dを基に直線のグラフをかき(用いるもの)、y座標が1000のときのx座標を読む(用い方).」と説明できているか、確認する場面を設けます。





まいこが書いたインターネットの使用に関する文章を読んで、考えたことを書く問題です。単に意見を書くだけでなく、文章の要点を捉えた上で、それに対する自分の考えを整理し、理由も含めて書く力が求められています。

中学校 英語

10 中学生のまいこ (Maiko) が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の (1) と (2) の問いに答えなさい。

(1) 【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

② <解答欄>

- 1 Many junior high school students use the internet to play games.
- 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
- 3 There are many good videos for learning English.
- 4 We can find the meaning of an English word quickly.

(2) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

<解答欄> ※半角で入力してください

あなたの考え

なぜそう考えるのか

③ Do you think my opinion is good?

ここに着目！ ①



- 「インターネットの使用に関する文章を読んで、それに対する考えを書く」という言語活動が設定されています。コミュニケーションの目的や場面、状況等が明確になることで、相手意識や目的意識をもつことができます。

ここに着目！ ②



- 「まいこが最も伝えたいこと」について、フレーズや文章の構成に着目し、要点を押さえて捉える力が求められています。

ここに着目！ ③



- 自分の意見について、理由とともに書く問題です。
読んだ内容に対する賛否や自分の考えをまとめ、読み手を意識した文章を書く力が求められています。



実践ポイント① 目的や場面、状況等を設定した言語活動の充実

- 「誰に」「何のために」「どのような状況か」等、実際のコミュニケーションの場面を想定し、生徒が目的や場面、状況等に応じて相手意識や目的意識をもつことができる必然性のある言語活動を、どの単元においても設定することが大切です。



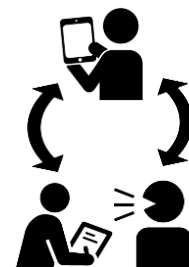
実践ポイント② まとまりのある文章の概要や要点を捉える活動の工夫

- 「～するために、文章を読んで〇〇する」といった、まとまりのある文章を読む目的を設定し、「読んでみたい」という生徒の意欲を高めます。
- 段落構成の把握、キーワードや接続詞、語と語の関連等に注目しながら、教科書に書き込んだり、学習者用デジタル教科書の書き込み機能を活用したりして読み進めるようにします。
- 文章を読んだ後、捉えた概要や要点について生徒同士が交流することを通じて、自分が読み取った内容を確認する場を設定します。



実践ポイント③ 自分の考えや気持ちを表現する言語活動の充実

- 基礎的な表現の定着を図るために、学習者用デジタル教科書を活用し、教科書の英文のリスニング活動や音読活動を繰り返し行います。
- 簡単な語句や文を用いて自分の考えや気持ちを表現する言語活動を、継続的かつ段階的に行います。
- テーマや話題について、マッピング等を用いて思考や情報を整理し、相手に伝わるよう構成等を考えて表現する活動を行います。
- 書いた文章を、1人1台端末を活用するなどして共有し、生徒が多くの文章を読んで比較することができるようにした後、必要に応じて自分の書いた文章を書き直す時間を設け、よりよく読み手に伝わる表現を工夫します。



特に確認したい児童生徒質問の内容

※ MEXCBTの機能を生かし、一部の項目をランダム方式で実施

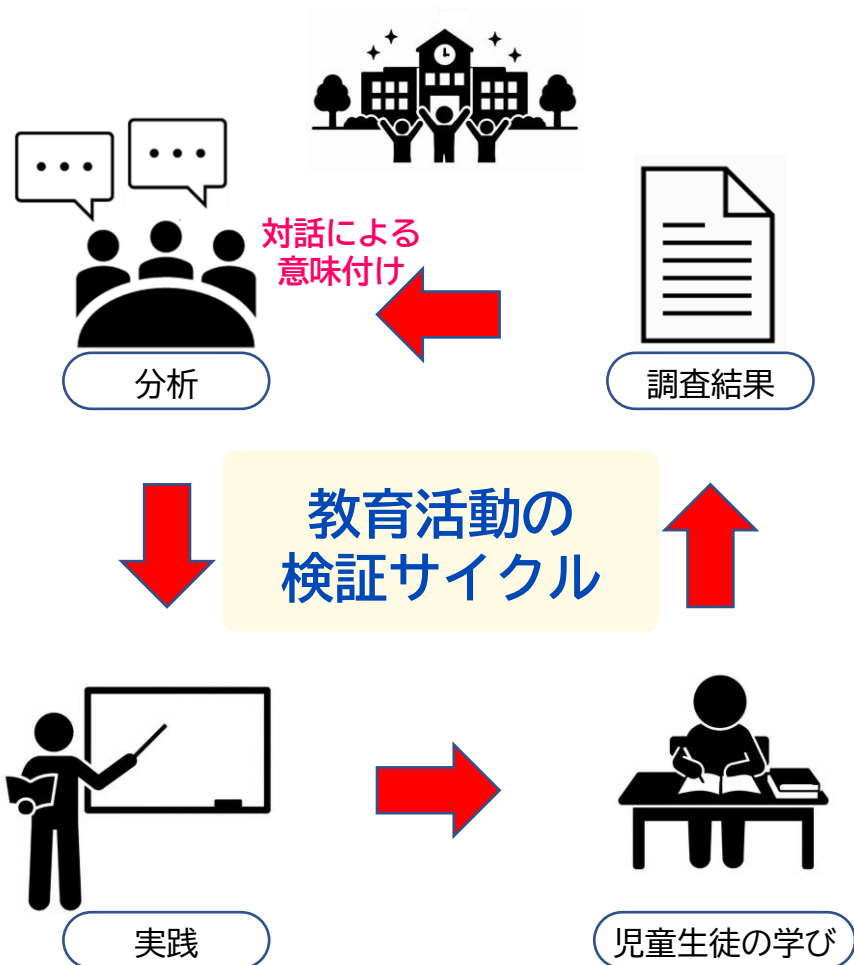
取組の重点: 言語活動の充実、ICTの有効活用、学び方の指導

小	中	質問内容	自校の取組の指標や重点としている質問内容がある場合は、差し替えてください。	意識している	意識できていない	取組の重点			新出
						言	ICT	学	
18	18	課題は終わるまでやり通す / 課題が難しくなるとさらに努力する / 物事をじっくり考えることは好き ※		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				☆
19	19	物事の仕組みを知ることは好き / 新しいことを学ぶのは好き / 問題の解決策を見つけることは好き ※		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				☆
20	20	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				☆
32	32	学習の計画の立て方や学び方が分かる / 自分が理解したか、何がわかっていないかを確認するために、学習したことを振り返っている ※		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			◎	☆
37	37	ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる / 分からないことがあった時に、すぐに調べることができる / 自分の学習の状況や成果を振り返ることができる / ※		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		◎	◎	☆
39	39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			◎	
42	42	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	◎			
43	43	学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			◎	
57	57	先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

どのような取組ができるのか校内研修会等で検討しましょう。

3 調査結果の分析方法と活用事例

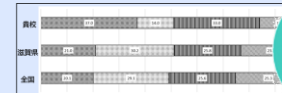
調査の目的は、教育活動の検証サイクルの確立です。調査結果は、客観的事実であり貴重な教育データですが、データそのままがすぐに授業の改善につながることはありません。対話による意味付けにより、よりよい授業や学校経営につながります。



調査の目的「教育活動の検証サイクル」の要である調査結果の見方や分析方法、調査の目的を踏まえた活用事例を紹介します。

学級や学年の学力層の分布を知りたい！

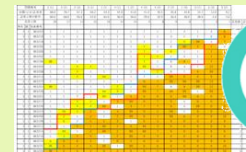
四分位グラフ



詳しくはこちら

「誰が」「どの問題で」つまづいているかを知りたい！

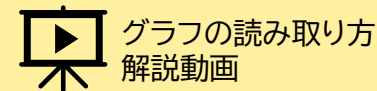
S-P表



詳しくはこちら

全国等と比較した強みや弱みを知りたい！

IRTバンド別類型割合グラフ



四分位グラフって？

得点の分布を全国基準で4つの層(A層～D層)に分けたものです。

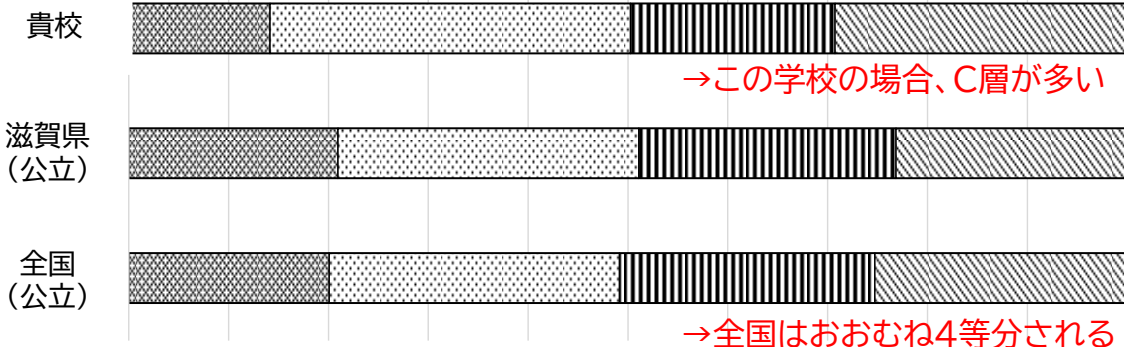
全体のバランスがひと目で分かり、全体としてどこに力を入れて指導すべきか(伸びしろはどこか)が見えてきます。

習熟度別の指導など、実態に合った手立てを考えるきっかけになります。

全国基準

0-6問 7-10問 11-13問 14-16問

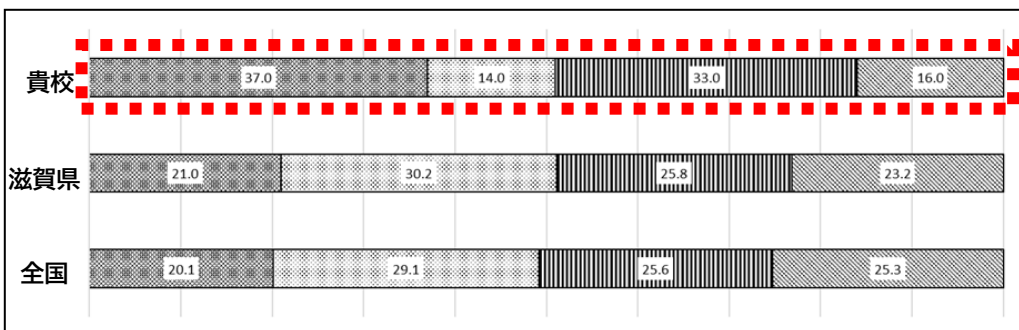
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



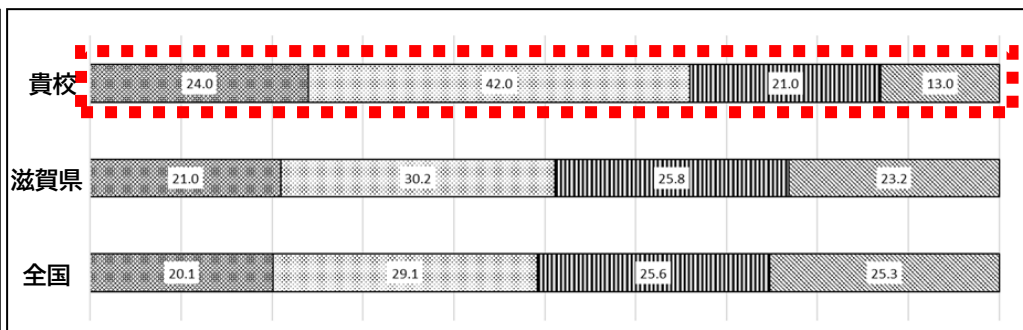
D層 0～6問 C層 7～10問 B層 11～13問 A層 14～16問

指導のヒント

【例1】B層とD層の割合が大きい場合



【例2】C層の割合が大きい場合

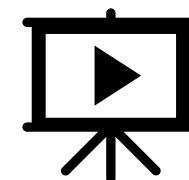


習熟度別指導の工夫

習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成し、D層の子どもがC層に、B層の子どもがA層にステップアップできるように、学習集団に適した指導を行います。また、習熟の程度に合わせた家庭学習の工夫も併せて行います。

S-P表を活用したつまずきの分析

S-P表を活用すると、C層の子どもがどの設問でつまずき、どのような解答をしているのかを把握することができます。把握した課題に応じて、指導方法を工夫することができます。



S-P表 解説動画

S-P表って？

S-P(エス・ピー)表とは、個々の児童生徒(Student)や設問(Problem)の解答状況を把握しやすくするために、学校や学級単位の調査結果を示す表を加工したものです。

活用することにより、「誰が」「どの問題で」つまづいているかが分かり、一人ひとりにぴったりのサポートを見付け出すことができます。

→ 正答率の高い問題が左から順に並んでいる →

どう見たらいいの？

S曲線(青)

= 当該児童生徒の正答数
(その児童生徒の力の目安)

P曲線(赤)

= 当該学校/学級の正答数
(設問の難易度)

* 全国正答率は赤点線

セルには各設問の解答類型が記入され、誤答の場合、色付きで示されています。

S曲線(青)より左→黄色セル

S曲線(青)より右→橙色セル

↓ 正答数の多い児童生徒が上から順に並んでいる ↓

問題番号			2 (1)	3 (2)	2 (3)	3 (1)	1 (1)	4 (1)	1 (2)	4 (3)	4 (2)	2 (2)	1 (3)	5 (1)	3 (3)	5 (2)	正答数	正答率
全国(公立)正答率			88.0	78.7	67.3	66.2	54.3	54.0	41.8	41.0	40.5	35.8	34.8	14.7	12.0	9.2		
正答人数の割合			80.0	68.0	56.0	52.0	64.0	56.0	36.0	20.0	32.0	36.0	36.0	28.0	4.0	4.0		
正答人数			20	17	14	13	16	14	14	5	8	9	9	7	3	1		
学年	組	答案番号																
3	1	863202	1	1	1	1	1				1	1	3	1	3	8	13	92.9
3	1	863210	1	1	1	1	1				1	3	1	1	6	8	13	92.9
3	1	863218	1	1	1	1	1				1	1	9	99	3	7	11	78.6
3	1	863205	1	1	1	1	1			7	1	6	99	5	7	3	10	71.4
3	1	863206	1	1	1	1	1			7	1	0	1	1	6	10	71.4	
3	1	863202	1	1	1	1	1			7	2	1	3	1	7	8	10	71.4
3	1	863198	99	1	1	1	1			7	1	8	9	1	7	7	9	64.3
3	1	863204	1	1	4	4	1			99	1	8	3	1	12			
3	1	863208	1	1	4	1	1			1	2	8	1	6	99			
3	1	863213	1	1	4	1	99			1	1	99	6	6	9			
3	1	863227	1	1	1	1	1			1	0	7	99	99	12	9	7	50.0
3	1	863203	99	1	1	1	2			99	7	8	9	99	12	10	6	42.9
3	1	863226	1	1	1	1	99			3	1	99	7	99	1	99	8	42.9
3	1	863201	1	1	2	1	99			1	5	0	6	0	99	0	9	35.7
3	1	863217	1	1	4	2	1			3	99					0	4	28.6
3	1	863220	1	1	4	4	99			1	3					9	4	28.6
3	1	863224	1	99	4	2	1			3	99					10	3	21.4
3	1	869200	1	2	1	2	1			2	99	0	7	99	6	0	9	21.4
3	1	863199	1	0	2	4	5			3	1	0	3	0	0	0	9	21.4
3	1	863211	1	1	5	4	99			4	0	99	3	0	0	6	9	14.3
3	1	863214	1	99	1	2	99			2	99	99	7	0	0	8	9	14.3
3	1	863216	1	3	4	4	1			2	99	0	3	0	0	0	2	14.3
3	1	863219	0	0	0	4	1			0	5	0	0	0	0	9	1	7.1
3	1	863225	99	0	4	4	99			1	99	0	6	0	0	0	10	7.1
3	1	863209	99	2	4	2	0			2	0	0	7	0	0	10	0	0.0

S曲線(青)

P曲線(赤)

全国正答率(赤点線)



指導にどう生かしたらいいの？—取組を絞る3つの視点

①赤実線が赤点線より上にある設問(特に差が大きい設問)
= 重点的に指導すべき設問
(全国の正答率よりも低い設問)

1	
1	
2	
4	
2	

誤答を分析し、課題を焦点化

誤答の内容からどこでつまづいているかに注目し分析することが重要です。実際に全教職員で解いてみることも有効です。

②黄色セルの設問

= 当該児童生徒にとって比較的正答が容易だったと考えられる設問

同じ問題にすぐに再チャレンジ！

児童生徒が個々に見直し、もう一度同じ問題に取り組みます。すぐに取り組むことで、自分の誤答の原因を振り返ることができます。

全体的に黄色セルの多い設問は、誤答の原因を分析し、改善策を検討する必要があります。

長期的な視点で、授業と関連付けた取組を！

橙色セルが多い設問は、学年・学級全体でもう一度指導する必要がある問題だと考えられます。

「この設問を解くためには、どのような力が必要か」「その力を付けるためには、どのような指導が適切か」等を検討し、授業実践に取り組みます。

③橙色セルの設問


= 当該児童生徒が理解していない可能性が高い設問

問題番号	2 (1)	3 (2)	2 (3)	3 (1)	1 (1)	4 (1)	1 (2)	4 (3)	4 (2)	2 (2)
全国(公立)正答率	88.0	78.7	67.3	66.2	54.3	54.0	41.8	41.0	40.5	35.8
正答人数の割合	80.0	68.0	56.0	52.0	64.0	56.0	36.0	20.0	32.0	36.0
20	17	14	13	16	14	14	5	8	9	
3 1 863210	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
3 1 863218	1	1	1	1	1	1	1	2	1	9
2 1 863205	1	1	1	1	1	1	1	7	1	99
1 863206	1	1	1	1	1	1	1	7	1	0
1 863202	1	1	1	1	1	1	1	7	2	1
1 863198	99	1	1	1	1	1	1	7	1	8
1 863204	1	1	4	4	1	1	1	99	1	8
1 863208	1	1	4	1	1	1	1	1	2	8
863213	1	1	4	1	99	1	1	1	1	99
863227	1	1	1	1	1	1	1	0	7	99
3 1 863203	99	1	1	1	1	2	1	99	7	8
3 1 863206	1	1	1	1	99	3	1	99	7	99
1 863201	1	1	2	1	99	1	5	0	6	0
863217	4	2	1	3	99	0	7	0	4	0
863220	4	4	99	1	3	7	7	0	4	0
863224	1	99	4	2	1	3	99	0	2	99
869200	1	2	1	2	1	2	99	0	7	0
3 1 863199	1	0	2	4	5	3	1	0	3	0
1 863211	1	1	5	4	99	4	0	99	3	0
1 863214	1	99	1	2	99	2	99	99	7	0
3 1 863216	1	3	4	4	1	2	99	0	3	0
3 1 863219	0	0	0	4	1	0	5	0	0	0
3 1 863225	99	0	4	4	99	1	99	0	6	0
3 1 863209	99	2	4	2	0	2	0	0	7	0

黄色セル

橙色セル

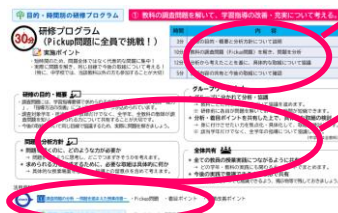
4 校内研修会の進め方

 調査を活用した校内研修をどのように計画し、実施するかを考えます。学校の実態や目的に応じてプログラムを選択してください。

研修を計画する際のポイント




- ・多くの教員が参加しやすい日時・時間帯に設定します。
- ・資料は事前に配付しておくこと、予習や研修時間の短縮になります。
- ・協議は、小グループに分けて効率よく行います。
- ・短い研修会であっても、学年会や教科部会と連動させて、具体的な実践内容を検討します。

各プログラムの掲載内容



☆研修の流れ
各学校で時間を調整してください。


☆内容の詳細

-  全員で確認しておきたい内容
-  グループ協議のポイント
-  協議をまとめる際のポイント

☆活用する資料 ワークシートや分析資料 など

研修の目的と時間別プログラム

研修の目的	時間別プログラム
① 教科の調査問題を解いて、学習指導の改善・充実について考える。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>30分</p> <p>Pickup問題に 全員で挑戦！</p> <p>詳しくは こちらから</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>60分</p> <p>改善に向けた 実践の検討！</p> <p> オススメ</p> <p>詳しくは こちらから</p> </div> </div>
② 質問調査の内容を確認して、今求められる取組について考える。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>30分</p> <p>今求められる 取組を確認！</p> <p> オススメ</p> <p>詳しくは こちらから</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>60分</p> <p>全体&各自の 取組を検討！</p> <p>詳しくは こちらから</p> </div> </div>
【結果返却後】 ③ 調査結果を分析し、今後の学習指導の改善・充実について考える。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>60分</p> <p>主な課題の 洗い出し・焦点化</p> <p></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>90分</p> <p>改善に向けた 具体的な取組の検討</p> <p></p> </div> </div>

 マークは、特に推奨するプログラムです。

30分 研修プログラム (Pickup問題に全員で挑戦！)

実施ポイント

- ・短時間のため、問題全体ではなく代表的な問題に集中！
- ・実際に問題を解き、同じ目線で今後の取組について考える！
(特に、中学校では、当該教科以外の教員も参加することが大切)

時間	内容	ワークシート 記入箇所
3分	研修の目的・概要と分析方針について説明	
10分	教科の調査問題(Pickup問題)を解き、問題を分析	①②
12分	分析から考えたことを基に、具体的な取組について協議	③
5分	協議内容の共有と今後の取組について確認	③

研修の目的・概要

- ・調査問題には、学習指導要領で求められる内容や「育成を目指す資質・能力」「指導方法の改善」についてのメッセージが込められています。
- ・調査対象学年・担当教科の教員だけでなく、全学年、全教科の教員が調査問題を知り、求められる力について共有することが大切です。
- ・今後の取組について同じ目線で協議するため、実際に問題を解きましょう。

問題の分析方針

- ◎ 問題を解くのに、どのような力が必要か
→ 児童生徒が問題をどのように思考し、どこでつまずきそうかを考えます。
- ◎ 求められる力を育成するために必要な、具体的な取組は何か
→ 具体的な授業場面を想定し、指導上の留意点を含めて考えます。

グループワーク

- ◎ グループに分かれて分析・協議
→ 教科ごとに同じ問題に基づいて協議を進めます。
※ 研修前に各自が問題を解いておくと、時間が短縮できます。
- ◎ 分析・着目ポイントを共有した上で、具体的な取組の検討
→ 身に付けさせたい力を焦点化・具体化して、取組を検討します。
※ 該当学年だけでなく、全学年の指導について協議します。
(中学校は全教科)

全体共有

- ◎ 全ての教員の授業実践につながるように共有
→ どの学年・教科の実践にも関わるキーワードでまとめます。
- ◎ 今後の実践で意識できるような形で共有
→ 研修結果をいつでも意識できるよう、掲示物等で残しておきましょう。

活用資料

check

1 調査問題の分析 ～問題を踏まえた授業改善～ ・ Pickup問題 ・ 着目ポイント ・ 授業改善ポイント

研修で活用できるワークシート ・ ワークシート「調査問題の分析」

60分 研修プログラム (改善に向けた実践の検討！)



実施ポイント

- ・問題を解いて分析する時間と取組を検討する時間を設け、理解を伴った実践につなげる！
- ・課題の抽出と改善に向けた取組に関する議論を重視！

※ 朱書きは、30分プログラムからの追加事項

時間	内容	ワークシート 記入箇所
3分	研修の目的・概要と分析方針について説明	
22分	調査問題を解き、問題を分析（出題意図・誤答例も確認）	①②③
25分	分析したことを踏まえ、改善に向けた取組について協議	④
10分	協議内容の共有と今後の取組について確認	④⑤

☆ 挑戦する問題は、Pickup問題+課題の見られた問題 等を想定

研修の目的・概要

- ・調査問題には、学習指導要領で求められる内容や「育成を目指す資質・能力」「指導方法の改善」についてのメッセージが込められています。
- ・調査対象学年・担当教科の教員だけでなく、全学年、全教科の教員が調査問題を知り、求められる力について共有することが大切です。
- ・今後の取組について同じ目線で協議するため、実際に問題を解きましょう。

問題の分析方針

- 問題を解くのに、どのような力が必要か
→ 児童生徒が問題をどのように思考し、どこでつまずきそうかを考えます。
→ 児童生徒の誤答を予想し、指導の工夫や手立てを具体的に考えます。
- 求められる力を育成するために必要な、具体的な取組は何か
→ 具体的な授業場面を想定し、指導上の留意点を含めて考えます。

グループワーク

- グループに分かれて分析・協議
→ 教科ごとに同じ問題に基づいて分析・協議を進めます。
※ 研修前に各自が問題を解いておくと、時間の短縮が可能です。
※ ①教科ごと→②教科混合にするなど、グループ編成を工夫します。
- 分析・着目ポイントを共有した上で、具体的な取組の検討
→ 身に付けさせたい力を焦点化・具体化して、取組を検討します。
※ 該当学年だけでなく、全学年の指導について協議します。
(中学校は全教科)

全体共有

- 全ての教員の授業実践につながるように共有
→ どの学年・教科の実践にも関わるキーワードでまとめます。
※ 全体でまとめるだけでなく、各自が実践を考える時間も確保します。
- 今後の実践で意識できるような形で共有
→ 研修内容をいつでも意識できるよう、掲示物等で残しておきましょう。
※ 取組についての検証方法や時期も決めておくと、より効果的です。

活用資料

check

1 調査問題の分析 ～問題を踏まえた授業改善～

- ・ Pickup問題
- ・ 着目ポイント
- ・ 授業改善ポイント

5 各教科の主な課題と今年度の該当問題

- ・ 課題の見られた問題

30分 研修プログラム (今求められる取組を確認！)



実施ポイント

- ・ 質問調査から自校に必要な取組を具体的に考える！
- ・ 各教科の調査問題の分析と組み合わせると、より効果的！

時間	内容	ワークシート 記入箇所
3分	研修の目的・概要と分析方針について説明	
10分	児童生徒質問調査の質問項目の内容を確認・分析	①②
12分	自校に必要な取組や、改善に向けた取組について協議	③
5分	協議内容の共有と今後の取組について確認	③

研修の目的・概要

- ・ 質問調査には、学習指導要領で求められる内容や「指導方法の改善」についてのメッセージが込められています。
- ・ 調査対象学年だけでなく、全学年の教員が質問調査の内容を知り、求められている取組について共有することが大切です。

質問の分析方針

- ◎ 子どもたちに求められている力や習慣は何か
→ 具体的にどのような力・習慣か、自校の課題はどこか考えます。
→ 日々の指導で意識できているかを考えます。
- ◎ 今求められる取組について、優先すべき内容は何か
→ 具体的な実践場面を想定し、指導上の留意点を含めて考えます。
※ 自校の教育目標や重点に基づき、できる限り焦点化を図ります。

グループワーク

- ◎ グループに分かれて分析・協議
→ 学年集団や教科集団など、グループ編成を工夫します。
※ 確認する質問の内容は絞っておくと、時間の短縮が可能です。
- ◎ 今後の取組について検討（具体化・焦点化）
→ いつ、誰が、どのように取り組むか等、具体的な取組を検討します。
※ 該当学年だけでなく、全学年の取組について協議します。
(中学校は全教科)

全体共有

- ◎ 全ての教員の実践につながるように共有
→ どの学年・教科の実践にも関わるキーワードでまとめます。
- ◎ 今後の実践で意識できるような形で共有
→ 研修結果をいつでも意識できるように、掲示物等で残しておきましょう。
→ 家庭や地域に関わる内容については、積極的に発信しましょう。

活用資料

check

② 質問調査の分析 ～今求められる取組とは～

※ 特に確認したい質問内容は全員がチェック！

研修で活用できるワークシート ・ ワークシート「質問調査の分析」

令和8年度
質問調査

小学校	児童質問調査	中学校	生徒質問調査
	学校質問調査		学校質問調査

60分 研修プログラム (全体&各自の取組を検討！)

実施ポイント

- ・ 質問調査から自校に必要な取組を具体的に考える！
- ・ 昨年度の調査の課題を踏まえて分析すると、より効果的！
(学ぶ力向上策の指標などに関連する質問項目に着目)

※ 朱書きは、30分プログラムからの追加事項

研修の目的・概要

- ・ 質問調査には、学習指導要領で求められる内容や「指導方法の改善」についてのメッセージが込められています。
- ・ 調査対象学年だけでなく、全学年の教員が質問調査の内容を知り、求められている取組について共有することが大切です。

質問の分析方針

- ◎ 子どもたちに求められている力や習慣は何か
→ 具体的にどのような力・習慣か、自校の課題はどこか考えます。
→ 日々の指導で意識できているか考えます。
- ◎ 今求められる取組について、優先すべき内容は何か
→ 具体的な実践場面を想定し、指導上の留意点を含めて考えます。
※ 自校の教育目標や重点に基づき、焦点化・重点化を図ります。
(これまでの調査結果も踏まえて、優先すべき内容を精選)

活用資料



② 質問調査の分析 ～今求められる取組とは～

※ 特に確認したい質問内容は全員がチェック！

研修で活用できるワークシート ・ ワークシート「質問調査の分析」

時間	内容	ワークシート 記入箇所
3分	研修の目的・概要と分析方針について説明	
7分	昨年度、全国や県と比べて課題のある質問を確認	①
15分	児童生徒質問調査の質問項目の内容を確認・分析	②③
25分	自校に必要な取組や、改善に向けた取組について協議	④
10分	協議内容の共有と今後の取組について確認	⑤

グループワーク

- ◎ グループに分かれて分析・協議
→ 学年集団や教科集団など、グループ編成を工夫します。
※ 確認する質問の内容を絞っておくと、時間の短縮が可能です。
- ◎ 今後の取組について検討（具体化・焦点化）
→ いつ、誰が、どのように取り組むか等、具体的な取組を検討します。
※ 該当学年だけでなく、全学年の取組について協議します。
(中学校は全教科)

全体共有

- ◎ 全ての教員の実践につながるように共有
→ どの学年・教科の実践にも関わるキーワードでまとめます。
※ 全体でまとめるだけでなく、各自が実践を考える時間も確保します。
- ◎ 今後の実践で意識できるような形で共有
→ 研修結果をいつでも意識できるよう、掲示物等で残しておきましょう。
→ 家庭や地域に関わる内容については、積極的に発信しましょう。

令和8年度
質問調査

小学校

児童質問調査
学校質問調査

中学校

生徒質問調査
学校質問調査



教科の調査問題を解いて、学習指導の改善・充実について考える。

結果返却後に
実施の場合

☆ 調査の問題を分析してみましょう。

分析したPickup問題：教科（ ）

平均正答率：自校（ ）%、県（ ）%、全国（ ）%

① 求められる力（問題を解くのに必要な力や思考）

② 教科の分析資料等から

③ 学校全体で取り組む内容



教科の調査問題を解いて、学習指導の改善・充実について考える。

結果返却後に
実施の場合

☆ 調査の問題を分析してみましょう。

分析した問題：教科（ ） 大問（ ）

平均正答率：自校（ ）%、県（ ）%、全国（ ）%

① 求められる力（問題を解くのに必要な力や思考）

② 想定される自校の子どもたちのつまずき

③ 教科の分析資料等から

④ 学校全体で取り組む内容

⑤ 自身の授業で特に意識して取り組む内容



質問調査の内容を確認して、今求められる取組について考える。

結果返却後に
実施の場合

☆ 質問調査を分析してみましょう。

課題のある質問項目： () () () ()

① 子どもたちに求められている力や習慣

② 自校の子どもたちの課題

③ 学校全体で取り組む内容（優先すべき内容に☆）



質問調査の内容を確認して、今求められる取組について考える。

結果返却後に
実施の場合

☆ 質問調査を分析してみましょう。

課題のある質問項目： () () () ()

① 昨年度の課題とそれに対する取組の状況

② 子どもたちに求められている力や習慣

③ 自校の子どもたちの課題

④ 学校全体で取り組む内容

⑤ 自身が特に意識して取り組む内容

5 各教科の主な課題と今年度の該当問題

調査問題は、毎年違うのでは？

全国的な課題については、題材を変えながら毎年出題されています。自校の児童生徒の学力の状況に着目しましょう。また、調査問題は、課題の改善に向けた学習指導に関するメッセージです。分析することで、授業改善につながります。



昨年度調査における各教科の課題と、それに該当する今年度の調査問題をまとめています。自校の課題と照らし合わせ、改善されているかを確認してください。

教科	主な課題（令和7年度調査） ※ 中学校英語は令和5年度	
小学校国語	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること ② 資料を読み、自分の考えたことを、理由を明確にして書くこと 	<p>該当する 今年度の調査問題</p> <p>詳しくは こちらから</p>
小学校算数	<ul style="list-style-type: none"> ① 数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察すること ② 目的に応じて、表やグラフを読み取り、見いだしたことを表現すること 	<p>該当する 今年度の調査問題</p> <p>詳しくは こちらから</p>
中学校国語	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の考えについて、文章の内容を適切に取り上げて説明すること ② 文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えること 	<p>該当する 今年度の調査問題</p> <p>詳しくは こちらから</p>
中学校数学	<ul style="list-style-type: none"> ① 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること ② データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること 	<p>該当する 今年度の調査問題</p> <p>詳しくは こちらから</p>
中学校英語	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的や場面、状況等に応じて、概要や必要な情報を正しく捉えること ② 事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと 	<p>該当する 今年度の調査問題</p> <p>詳しくは こちらから</p>

今年度の問題	問題の概要 (出題の趣旨)	関連する これまでの問題 正答率	これまでの問題の概要課題
課題①：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること			
大問3 三(1)	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	令和7年度 大問3三(1) 38.0%(全国比-2.8)	【話し合いの様子】の発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する設問
		令和7年度 大問3三(2) 52.6%(全国比-3.7)	【資料1】を読み返して自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く設問
		令和5年度 大問2二 65.1%(全国比-2.3)	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する設問
課題②：資料を読み、自分の考えたことを、理由を明確にして書くこと			
大問3 三(2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題	令和5年度 大問2四 54.5%(全国比-1.7)	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことを基に、自分ができそうなことをまとめて書く設問
その他の課題：情報と情報とを関係付け、図などによる語句との関係の表し方を理解し使うこと			
大問3 二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題	令和7年度 大問1二 61.4%(全国比-1.7)	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する設問

今年度の問題	問題の概要 (出題の趣旨)	関連する これまでの問題 正答率	これまでの問題の概要
課題①：数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統一的・発展的に考察すること			
大問3 (3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題	令和7年度 大問3(2) 21.9%(全国比-1.1)	$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く設問
		令和7年度 大問3(1) 73.1%(全国比-1.0)	0.4+0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く設問
課題②：目的に応じて、表やグラフを読み取り、見いだしたことを表現すること			
大問4 (1)	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題	令和7年度 大問1(3) 71.0%(全国比-0.6)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ設問
大問4 (2)	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる問題	平成30年度B 大問2(1) 67.7%(全国比-2.8)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く設問
大問4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題	令和5年度 大問4(4) 63.7%(全国比-0.9)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ設問
その他の課題：算数の用語の意味や式の意味を正しく理解すること			
大問1 (3)	体積の意味について理解しているかどうかをみる問題	平成26年度A 大問5(2) 77.0%(全国比-4.1)	1cm ³ の立方体を基に、示された直方体の体積を求める設問
大問2 (3)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる問題	令和3年度 大問1(3) 54.5%(全国比-1.3)	㊸と㊹の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ設問

今年度の問題	問題の概要 (出題の趣旨)	関連する これまでの問題 正答率	これまでの問題の概要課題
課題①：自分の考えについて、文章の内容を適切に取り上げて説明すること			
大問4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題	令和5年度 小学校国語 大問2四 54.5% (全国比-1.7)	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことを基に、自分ができそうなことをまとめて書く設問
		令和7年度 大問3四 13.5%(全国比-3.6)	文章の構成や展開について、根拠を明確にして自分の考えとその根拠を書く設問
課題②：文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えること			
大問3 二	文章に合うように表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる問題	令和5年度 大問4三 43.7% (全国比-6.3)	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く設問
		令和6年度 大問3四 43.0% (全国比-6.8)	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する設問
		令和7年度 大問3一 78.1% (全国比-1.9)	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する設問

今年度の問題	問題の概要 (出題の趣旨)	関連する これまでの問題 正答率	これまでの問題の概要課題
課題①：事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること			
大問7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題	令和7年度 大問8(2) 34.5%(全国比-3.5)	走行距離と運賃の関係から、グラフなどを用いて、新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する設問
		令和4年度 大問8(2) 37.3%(全国比-1.1)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する設問
		令和4年度(算数) 大問2(4) 43.2%(全国比-4.8)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く設問
課題②：データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること			
大問9 (3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる問題	令和6年度 大問7(2) 21.9%(全国比-4.0)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張できる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する設問
		令和3年度 大問8(3) 11.2%(全国比+0.1)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する設問
		平成29年度B 大問5(3) 16.3%(全国比-1.3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する設問
その他の課題：数学の用語の意味を正しく理解できていること			
大問2	同類項の意味を理解しているかどうかをみる問題	令和7年度 大問3 57.3%(全国比-0.8)	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める設問

今年度の問題	問題の概要 (出題の趣旨)	関連する これまでの問題 正答率	これまでの問題の概要課題
課題①：目的や場面、状況等に応じて、概要や必要な情報を正しく捉えること			
大問2	日常的な話題について、 <u>目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題</u>	令和5年度 大問2 59.6%(全国比-1.5)	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する設問
大問3	日常的な話題について、 <u>自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題</u>	令和5年度 大問3 38.8%(全国比-2.4)	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する設問
大問8	日常的な話題について、 <u>自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題</u>	令和5年度 大問6 34.4%(全国比-1.5)	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する設問
大問9	日常的な話題について、短い文章を読み、 <u>概要を捉えることができるかどうかをみる問題</u>	令和5年度 大問7(2) 33.8%(全国比-0.9)	図書館について書かれた英文を読み、 <u>その概要として最も適切なものを選択する設問</u>
大問10 (2)	社会的な話題について、短い文章を読み、 <u>要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題</u>	令和5年度 大問8(2) 17.4%(全国比-2.1)	ロボットについて書かれた英文を読み、 <u>書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く設問</u>
課題②：事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章で表現すること			
大問12 大問13 大問14	日常的な話題について、 <u>事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題</u>	令和5年度 大問10 7.2%(全国比-0.2)	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く設問

管理職・教務主任・研究主任向け資料

令和8年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料

小学校 国語	調査問題	正答例	解説資料
小学校 算数	調査問題	正答例	解説資料
中学校 国語	調査問題	正答例	解説資料
中学校 数学	調査問題	正答例	解説資料
中学校 英語	調査問題 ■ 聞くこと ■ 聞くこと (スクリプト) ■ 読むこと・書くこと ■ 話すこと ■ 話すこと (スクリプト) ■ 問題の構成	正答例 ■ 聞く・読む・書く ■ 話すこと	解説資料

質問調査

小学校	児童質問調査
	学校質問調査
中学校	生徒質問調査
	学校質問調査

もっと
見る!

これまでの 調査結果

- ・令和7年度
- ・令和6年度
- ・令和5年度
- ・令和4年度
- ・令和3年度
- ・平成31年度

これまでの全国学力・学習状況調査に関わる資料

年度	調査問題・正答例・解説資料	報告書・調査結果資料	授業アイデア例	説明会資料
令和7年度	調査問題・正答例・解説資料	報告書・調査結果資料	授業アイデア例一覧	説明会資料
令和6年度	調査問題・正答例・解説資料 経年変化分析調査結果資料	報告書・調査結果資料	授業アイデア例一覧	説明会資料
令和5年度	調査問題・正答例・解説資料	報告書・調査結果資料	授業アイデア例一覧	説明会資料

◆ 調査問題を活用した全教科の授業改善のヒント

調査問題は、教科ごとに分かれています。どの教科にも生かせる授業改善のヒントがあります。授業改善に悩んでいる教員と一緒に調査問題を解いて、授業改善について考えます。



◆ 教育データを活用する意義・ポイント

子どもの学びの様子や成長を正確に把握できると、指導や支援はより効果的になります。これまでの観察や見取りに加えて教育データを活用することのメリットについて確認します。



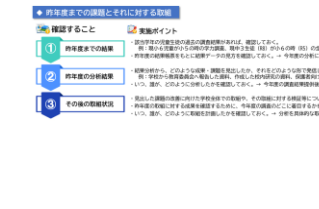
◆ 分析・検討・フィードバックの見通し

教育データの利活用を進めたいのに、これまでやったことがないので何から始めればよいのか分からない。そんな悩みを解決するためには、データ分析・検討・フィードバックの見通しをもつことが必要です。



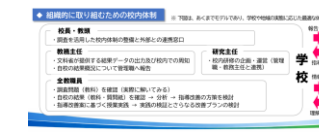
◆ 昨年度までの課題とそれに対する取組

「昨年度、どんな課題があり、どう向き合ってきたのか」を整理することで、今年度の改善ポイントがより明確に見えてきます。“取組を前進させるヒント”を確認します。



◆ 組織的に取り組むための校内体制の例

調査を活用して、学校全体で取組を進めるには、“誰がどう動くのか”を明確にしておくことが欠かせません。その土台となるのが、校内体制づくりです。組織として動ける仕組みを考えます。



◆ 調査問題を活用した全教科の授業改善のヒント

自分で見いだした授業改善のポイントは、実践につながります。
調査問題を活用したプチ校内研修を計画してみませんか。



授業に関するこんな悩みはありませんか？



日常生活に関連する題材を授業に取り入れているのに、児童生徒の興味・関心につながらない。



授業に話し合い活動を取り入れているのに、児童生徒の考えが広がったり、深まったりしない。



単元の中で言語活動をしっかり設定しているのに、付けたい力にうまくつながらない。



授業の中でいくつも発問していても、児童生徒の思考が深まらない。



児童生徒が問題発見・解決していく授業がイメージできず、どのように進めればよいか分からない。



※ ICTの効果的な活用場面については、各教科の問題で取り上げられています。



調査問題には、全ての教科等の授業改善につながるヒントがあります。授業に悩んでいる教員と調査問題を解き、改善について考えます。

調査問題を解く



授業改善について考える

小学校 算数
大問1 (4)

宅配便の宅配料は？

日常生活との関連を取り入れた授業のポイント

詳しくは [こちらから](#)

中学校 国語
大問2

合唱コンクールに向けて

課題の解決に向けた効果的な話し合い活動のポイント

詳しくは [こちらから](#)

中学校 英語
大問1 3

交流会で留学生としたいこと

付けたい力の育成につながる言語活動のポイント

詳しくは [こちらから](#)

小学校 国語
大問1

動画の工夫として適切なもの

児童生徒の思考を深める発問のポイント

詳しくは [こちらから](#)

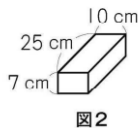
中学校 数学
大問9

保健委員会の睡眠時間調べ

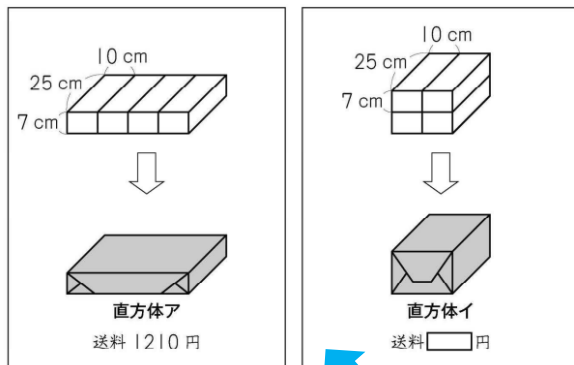
児童生徒が主体となった問題発見・解決のポイント

詳しくは [こちらから](#)

(4) はやとさんは、図2のような直方体の箱に入ったおかしを宅配便で送ろうとしています。



はやとさんは、図2のおかし4箱をまとめて紙で包み、1つの直方体の荷物にして送ります。まとめ方によって送料にちがいがああるかを調べるために、下の2つのまとめ方でできる直方体アと直方体イの送料を求めることにしました。



直方体アの送料は1210円です。
直方体イの送料は何円ですか。
直方体イの送料の求め方を
・3辺のそれぞれの長さ(縦の長さ、横の長さ、高さ)
・3辺の長さの合計

がわかるようにして、数や言葉を使って書きましょう。
また、送料が何円になるのかも書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。

A社の宅配便で送るとき、直方体の荷物の送料は、3辺の長さの合計で決まります。

3辺の長さの合計を求める式

$$(\text{縦の長さ}) + (\text{横の長さ}) + (\text{高さ})$$

3辺の長さの合計が100 cm以下の荷物の送料は、下の表のとおりです。

A社の送料

3辺の長さの合計	送料
60 cm 以下	920 円
60 cm より大きく 80 cm 以下	1210 円
80 cm より大きく 100 cm 以下	1510 円

図2のおかし1箱の場合、3辺の長さの合計は、 $25 + 10 + 7 = 42$ で42 cmです。42 cmは60 cm以下なので、送料は920円です。



宅配便の送料を求める問題です。日常の場面で生じる疑問を算数科の学習として問題解決する展開が参考になります。

ここに着目! ①



- 宅配便でお菓子の箱を送るときの送料を3辺の長さの合計から求めるという、児童の日常生活において起こりうる事象を取りあげています。
- お菓子の箱の数は同じでも、まとめ方によって、宅配便の送料に違いがあるのかという疑問を大切にしています。

ここに着目! ②



- 問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して、活用できるようにしています。
- 考えを書く際の条件を示し、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて考えるように促しています。

実践ポイント



日常場面で生じる疑問を基に教科等の学習を展開

- 日常生活の事象を取りあげ、そこで生じる児童生徒の疑問に基づいた問題を解決するような学習を展開します。
- 教科等の学習として、児童生徒一人ひとりが学びを深めることができるよう、どこに着目して、どのように考えればよいかを明確にします。



合唱コンクールに向けて話し合う場面を取り上げた問題です。課題の解決に向けた話し合い活動のモデルとして参考にすることができます。

ここに着目！ ①



- 「合唱コンクールの委員が学級の課題の解決に向けて話し合う」という音楽科や特別活動と関連した場面を取り上げています。
- 互いの考えを整理する中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、話し合いが進んでいます。

ここに着目！ ②



- 「歌声の強弱」「高い音の部分」など、音楽を形づくっている要素が生徒の思考・判断のよりどころになっています。
- 学級で立てた目標を意識して、話し合いを進め、異なる立場や考えを尊重しながら、結論を導くために考えをまとめようとしています。

① アンケートの結果を示した画面

合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートを取り、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次のアンケートの結果を示した画面、「話し合いの一部」、「話し合いを受けて整理した画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。

①



【話し合いを受けて整理した画面】

〔目標を達成するための課題〕

- ・歌声に強弱がつけられていない。
- ・高い音の部分がうまく歌えない。
- ・歌い出しのタイミングがそろわない。
- ・練習を始めるまでに時間がかかる。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない。

〔話し合いを受けて整理した画面〕

〔音楽科の先生に相談すること〕

- ・歌声に強弱をつけたい。
- ・高い音の部分をうまく歌いたい。
- ・自分たちで取り組むこと
- ・指揮者をよく見て、歌い出しのタイミングをそろえよう。
- ・集まったらずぐに練習を始めよう。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想を積極的に出そう。

②

話し合いの一部

山下 私たちの学級の目標は、「美しい歌声を響かせよう」で「目標を達成するための課題」として挙げられたものが、タブレット端末で共有したので、画面を見てください。まずはみんながどんなことを課題として考えているかを整理した上で、どうしていけばよいかを考えませんか。

石川 そうですね。「目標を達成するための課題」を見ると、歌の表現方法に関わるものと、練習への取り組み方に関わるもの二つに分かれるのではないのでしょうか。

山下 私もそう思います。例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分がうまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。

石川 「歌い出しのタイミングがそろわない」もそれに入ると思います。

大森 そうすると、それ以外の「練習を始めるまでに時間がかかる」「練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない」は、練習への取り組み方に関わるものになりますね。

山下 まずは、「目標を達成するための課題」を二つに分けられましたわ。

大森 では、このあとどうしていけばよいかを考えましょう。私は、歌の表現の仕方に関わるものは、音楽科の先生に相談するのがよいと思います。

石川 私もそう思います。ただ、「歌い出しのタイミングがそろわない」については、指揮者をよく見てタイミングをそろえるなど、自分たちで取り組むことができそうな気がします。

山下 そうですね。では、まずは自分たちで取り組んでみましょう。

大森 賛成です。

山下 いろいろな意見が出たので、今まで話し合ったことを受けて、「音楽科の先生に相談すること」と「自分たちで取り組むこと」に整理してみました。どうでしょうか。

石川 先生や学級のみんなに伝える言い方になっていてよいと思います。

大森 この内容をみんなにどのように伝えるかが大切ですね。

山下 そうですね。では、この「自分たちで取り組むこと」は、学級のみんなにどのように伝えるとよいでしょうか。

大森 この画面をオンライン上の学級のページに載せるのがよいと思います。タブレット端末を見て、取り組むことをいつでもまとめて確認することができるので、練習するときに気をつけることができるとおもいます。

石川 私は、練習ごとに一つずつ取り組むことを呼びかけていく、よいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できるといいですね。

山下 一つの意見が出ましたね。では、話し合いをまとめていきましょう。

②

実践ポイント



他教科等の学習を関連付けて、必要性がある課題を解決

- 児童生徒にとって、話し合う必要性があるという点が大切です。行事や学校生活、他教科等の課題を取り上げることも考えられます。教科横断的な視点でカリキュラムや単元を計画します。
- 各教科等と関連付ける際は、教科等で大切にしたいこと(音楽なら、音楽を形づくっている要素)を教科担当の教員に確認し、児童生徒と共有しておきます。
- 特別活動において育む、互いの立場や考えを尊重しながら話し合う力は、教科等の学習の基盤となる力です。児童生徒自身が課題を自分事として捉え、解決できるようにします。

 **まとまりのある文章を書く問題です。言語活動を授業に取り入れる際の設定（目的や場面、状況等）が参考になります。**

13



あなたは、留学生のトム(Tom)と仲良くなるために、交流会で一緒にしたいことをクラスに提案することになりました。「トムと一緒にしたいことを1つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、交流会でしたいことは下の【例】を参考にしてもかまいません。



What do you want to do with Tom?

【例】





ここに着目！①



- 「～のために」という目的や、「クラスへの提案」という場面、状況を明確に設定しています。
- 「一緒にしたいこと」をイラストで例示することで、生徒が自分の考えをもちやすくしています。

実践ポイント



相手意識や目的意識がもてる場面設定

- 必然性のある具体的な場面設定の中で言語活動を行い、「誰に」「何のために」という相手意識や目的意識をもって活動できるようにします。
- 可能なら、『本物』の相手や状況を設定することで、子どもたちはコミュニケーションの意義や楽しさを実感しながら、言語活動に取り組むことができます。
- 授業のねらいや、子どもの実態に応じて条件を示すことで、互いの考えを交流する際に、考えや活用している語句や文を比べやすくなります。

ここに着目！②



- 生徒が何を書けばよいかを明確にしています。
- 15語以上30語以内の条件を示し、まとまりのある文章を書くように促しています。

9 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することになりました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

(2) 二人は、学年によって睡眠時間の分布の傾向にどのような違いがあるか気になりました。そこで、次のような箱ひげ図に表して、学年別の睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。



保健委員会の活動場面を取り上げた問題です。教科等の学習において、児童生徒が主体となって問題を発見・解決するモデルとして参考になります。

①

問題を見いだす
「睡眠時間の特徴を知りたい！」

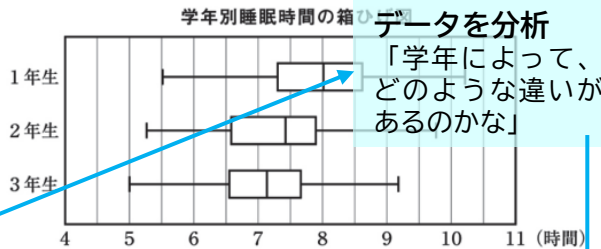
次の(1)から(3)まで
(1) 二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

全校生徒の睡眠時間の度数分布表

階級(時間)	度数(人)	累積度数(人)
以上4		
5 ~ 6	14	
6 ~ 7	75	ア
7 ~ 8	126	
8 ~ 9	62	
9 ~ 10	20	
10 ~ 11	2	
合計	300	

データを収集・表に整理
「睡眠時間の分布を調べよう！」

全校生徒の睡眠時間の度数分布表の「ア」には最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数が入ります。「ア」に当てはまる値を求めなさい。



データを分析
「学年によって、どのような違いがあるのかな」

学年別睡眠時間の箱ひげ図から、次のことがわかります。

1年生は、**イ** がおよそ8時間であることがわかる。
2年生と3年生は、**エ** が7.5時間以上8時間未満の値であることがわかる。
よって、睡眠時間が8時間未満の生徒の割合は、1年生より2年生と3年生の方が大きい。

睡眠時間の傾向を捉える

上の**イ**、**エ**のそれぞれ「どんなことが分かるかな」からオまでの中から1つずつ選びなさい。

ア 最小値 イ 最大値 ウ 中央値

エ 第1四分位数 オ 第3四分位数

②

過程や結果を振り返り、評価・改善

実践ポイント



児童生徒の疑問や思い・願いに基づいた探究的な学習

- 児童生徒の疑問や思い・願いに基づいて、探究的な学習の過程(問題を見いだす→情報を収集→整理・分析→まとめ・振り返り)を大切にします。そのため、活動における児童生徒のつばやきを拾ったり、問題発見・解決の過程を振り返る時間を設定したりします。
- 教科の学習として大切にしたいことを明確に示し、児童生徒が教科特有の見方・考え方を働かせられるように促します。

ここに注目！①



- 学校の生徒の睡眠時間について、保健だよりで報告するために、調べたことを整理して分析し、それらから傾向を捉える場面を取り上げています。
- 問題(1)→(2)→(3)は、生徒の気になったことや、さらに知りたいことをもとに展開されています。

ここに注目！②



- 考察・判断する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、考察・判断の理由を数学的な表現を用いて説明しています。

◆ 教育データを活用する意義・ポイント

従来からの教職員の観察や見取りに、教育データで可視化された情報を加えることで、**効果的な学級経営やきめ細かな個別指導・支援**につなげることができます。また、学校内の全ての教職員でデータを共有することで、**学校全体で児童生徒一人ひとりの状況を把握し、チームで支援**することが可能になります。

教職員の観察や見取り

○観察や見取りによる児童生徒の様子の把握



教育データで可視化された情報



○教育データをもとに児童生徒の状況を把握

心身の状況	学習の状況
・ 出欠や体調面の健康観察	・ 全国学力・学習状況調査、市町の学力調査
・ 心の健康観察	・ 学校や市町の児童生徒アンケート
・ 保健室の来室回数や来室時間帯等	・ デジタルドリルの利用ログやテスト結果

- ・ 苦手分野の克服やつまずきの解消に向けた個に応じた指導につなげることができる。
- ・ 複数のデータから児童生徒の心身の状態を早期に把握し、支援・対応することが可能になる。



効果の見られる学級における取組や指導を共有し、学校・学年での共通実践につなげていきましょう。



参考

・ 教育データの利活用に係る留意事項を紹介



文部科学省資料
https://www.mext.go.jp/content/2025_0328-mxt_syoto01-000028144_01.pdf

・ 効果的な教育データ利活用について紹介



文部科学省資料
https://www.mext.go.jp/content/20250220-mxt_syoto01_000040442_01.pdf

・ S-P表の活用方法について紹介



文部科学省資料
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ga_kuryoku-chousa/1409618.htm



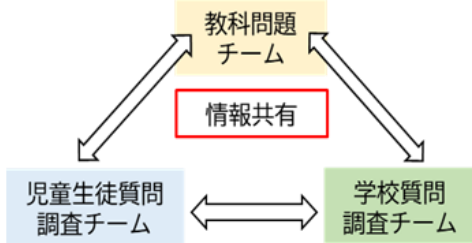


管理職を中心とした校内組織を編成し、**データ分析や情報共有の機会を確保**するなど、組織的・計画的な取組を行うことが大切です。

① データを用いた学力や学習状況等の分析

(例) 分析チームの編成

- ・3つのチームに分け、それぞれで分析し、情報共有を行う



比べる

- ・昨年度と比較する
- ・全国と比較する
- ・目標値と比較する 等

強みや課題を見付ける

- ・昨年度から伸びているところ
- ・全国と大きな差があるところ 等



② 指導や授業改善に向けた方策の検討

データを根拠に考える

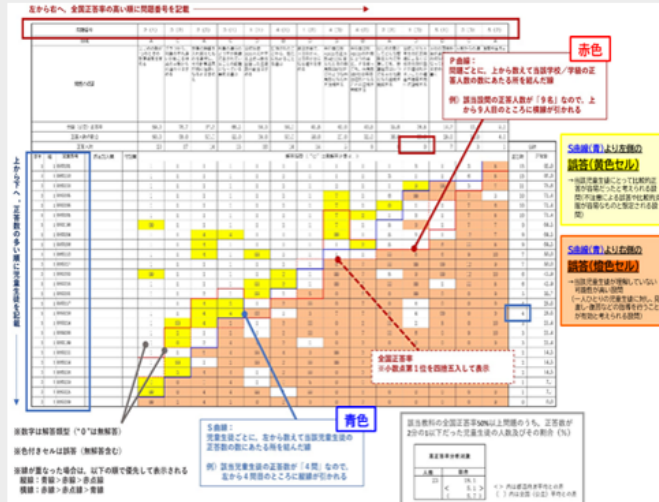
- ・前年度の指導や取組について振り返る
- ・これからの共通実践や授業改善について考える 等



分析資料の活用(全国学力・学習状況調査) 【S-P表(学校/学級別解答状況整理表)について】

S-P表とは、教科に関する調査結果を、学校や学級単位で、縦と横がそれぞれ児童生徒(Student)と設問(Problem)の正答数の多い順に並べ替えた表の中に**S曲線(青)**と**P曲線(赤)**を書き入れた表です。

S-P表の活用により、**学校や学級全体の課題の傾向**や、**個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問**を見付け出すことができます。



③ きめ細かな個別指導・支援

児童生徒一人ひとりへのフィードバック

- ・個々の強みや課題を把握し、共有する
- ・よりよい学び方について指導する
- ・授業中の丁寧な説明や必要な声かけにつなげる



◆ 昨年度までの課題とそれに対する取組

確認すること

実施ポイント

① 昨年度までの結果

- ・ 該当学年の児童生徒の過去の調査結果があれば、確認する。
例：現小6児童が小5の時の市町で実施した学力調査、現中3生徒（R8）が小6の時（R5）の全国学調 等
- ・ 昨年度の結果帳票をもとに結果データの見方を確認する。→ 今年度の分析について見通しをもつ。

② 昨年度の分析結果

- ・ 結果分析から、どのような成果・課題を見いだしたか、それをどのような形で発信したかを確認する。
例：学校から教育委員会へ報告した資料、作成した校内研究の資料、保護者向けの学校だより 等
- ・ いつ、誰が、どのように分析したかを確認する。→ 今年度の調査結果提供後、すぐに分析する。

③ その後の取組状況

- ・ 見いだした課題の改善に向けた学校全体での取組や、その取組に対する検証等について確認する。
- ・ 昨年度の実践に対する成果を確認するために、今年度の調査のどこに着目するかを明確にする。
- ・ いつ、誰が、どのように取組を計画したかを確認する。→ 分析を具体的な取組につなげる。

◆ 組織的に取り組むための校内体制の例

※ 下図は、あくまでモデルであり、学校や地域の実態に応じた最適な体制整備が重要です。

校長・教頭

- ・ 調査を活用した校内体制の整備と外部との連携窓口
- ・ 全教員の授業実践の確認

教務主任

- ・ 文科省が提供する結果データの出力および校内での周知
- ・ 自校の結果概況について管理職へ報告

研究主任

- ・ 校内研修の企画・運営（管理職・教務主任と連携）

全教員

- ・ 調査問題（教科）を確認（実際に解いてみる）
- ・ 自校の結果（教科・質問項目）を確認 → 分析 → 指導改善の方策を検討
- ・ 指導改善案に基づく授業実践 → 実践の検証とさらなる改善プランの検討

報告・相談

教育委員会

学校

指導・助言

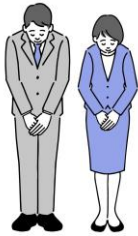
情報発信

保護者
地域

理解・協力

GAKUGAKU活用ガイド

全国学力・学習状況調査を活用した
授業改善・校内研修のための実践マニュアル



アンケートへの御協力をお願いします。

本ガイドは、時期に応じて内容をアップデートしていきます。本ガイドをよりよいものにするために、みなさんの感想や意見を聞かせてください。短い回答で大丈夫です。どうぞよろしくお願いします。

